

羽津地区の見どころ

羽津地区は、古くから都と東国を結ぶ交通の要衝でした。そのために、天照大神を奉じての倭姫命の伊勢巡幸、壬申の乱の際の大海人皇子の東国行、聖武天皇の東国巡幸など当地を經由したとされる事績が史書に残されています。江戸時代には東海道が整備され、参勤交代や伊勢参りで賑わいました。現在においても、国道1号、国道23号、近畿日本鉄道名古屋線、JR関西線などが通り、交通の要衝であることは変わっていません。こうした立地条件ですから、かつて当地を通り過ぎていった人たちの足跡がそこかしこに残されています。古に思いを馳せて、地区内の史跡を訪ねてみてはいかがでしょうか。



- 1 岡山古戦場**
南北朝時代は南朝が任命した国司と北朝・室町幕府が任命した守護との対立抗争が頻発した。「北直系譜」によると文中元年(1372)岡山山頂に陣取った国司の末裔・父入道勢と麓から攻め上る守護の仁木義長勢が戦い、守護側が全滅したといわれる。この宝篋印塔はこの付近に多数の墓が湧いているのを記した伊賀守の僧が鎮魂のために建てたものである。
- 2 岡山(垂坂山)**
壬申の乱(672年)の際に、大海人皇子がここで修験をしたことから御説(みそぎ)岡と名づけられたが、いつしか岡山と略し呼ばれるようになった。垂坂山と呼ばれるようになったのは戦後のことで、市内の小中学校の遠足で垂坂まで行かずに途中のこの岡上で遊んで済ませたことから、このように呼ぶようになったという。
- 3 大膳寺跡**
大膳寺は、重振観音寺を創建した慈惠大師良源の弟子覚慧が天延2年(974)に築いたとされ、天台宗の寺院だった。長享2年(1488)、本願寺蓮如上人が当地に立ち寄った際、時の住職円爾がその教化を受け、大膳寺を出て草庵を結んだ(洞泉寺の始まり)。その後大膳寺は存続したとされるが、長島一揆に絡んで、天正2年(1574)に織田信長勢によって一宇も残さず焼き払われ詳細不詳。
- 4 米洗川**
日本書紀では、大海人皇子が天照大神を遷したの地と記されている。この地は米洗川という。米洗川の名前は天孫降臨の際の神饌米をこの川で洗ったこと由来と伝えられる。米洗川については他にも朝明川、海蔵川など諸説があり、確定していない。
- 5 糠塚山**
壬申の乱(672年)の際に、この山上で大海人皇子が戦勝を祈願して天照大神を平伏遷したことから、糠塚山と呼ばれ、これが転じて糠塚山になったといわれる。
- 6 天武天皇宮遷葬所碑**
糠塚山の山頂にあり、大海人皇子が天照大神を遷した場所を示すものとして大正4年(1916)に建てられた。遷葬所については諸説があり確定していない。「神宮遷葬」は間違いで天照(天照大神)を拝んだと解すべきである。
- 7 志氏神社**
延喜式の名神小社で気吹戸主神を主神として祀り、相殿に伊弉諾命と伊弉册命を祀る。勧請年代は詳らかでないが、社伝によると重仁天皇の時代に勧請したとされる。日本書紀の記述をそのまま西暦に置き換えると重仁天皇の時代は紀元前後になるが、実際には4世紀ごろといわれる。境内古墳の築造年代がこれより古く、この古墳の築造とみられる。
- 8 伊賀留我神社**
織田信長の北伊勢侵攻の際に当社も焼かれたとされ、創祀年代は不明であるが、社伝によると重仁天皇の命を受け倭姫命が天照大神を奉じて祀る場所を求め、能代宮(桑名)から石山宮(鈴鹿)への遷幸中に休んだ場所に、額田部の子孫が天照大神の宮御霊を祀ったのが起源といわれる。
- 9 御岳神社**
御塚信仰に篤い地区の方が勧請したもので、昭和20年代(1945〜)に祀られた。社地は昔の山神社の跡地である。
- 10 八幡神社跡**
勧請年代は不詳であるが、江戸時代には一國一社の八幡神社として皇国66揮の一として名が聞かされていたといわれ、村名も神社に因んで八幡村となった。明治の合併により志氏神社に合祀され、旧社地には社名碑だけが残っている。
- 11 万葉歌碑**
天平12年(740)、聖武天皇の東国巡幸の際に、額田の丹比真真人が当地の旧地名四泥の地を詠みこんだ歌が万葉集に収録されている。この歌を刻んだのが当万葉歌碑である。「後れにし人へ徳は四泥の埒木細取りして往くぞ思ふ」
- 12 傍示碑**
碑の表面には「從北桑名領」の文字が深く刻まれている。江戸時代には、東海道の桑名藩領南限(現在の金場交差点付近)に南面して建てられていた。現在は暗渠になってしまっているが市道三重橋線(山手通り)の下には二重川という小川が流れており、これが桑名藩と南側の加納藩との藩境になっていた。
- 13 国勢調査記念碑**
大正9年(1920年)に、初めて行われた国勢調査を記念して建てられたものである。国勢調査を実施するための法律は明治35年(1902年)に成立しており、当初の予定ではその3年後に調査を実施することになっていた。ところが、日露戦争が勃発し、更に第一次世界大戦もあって、延期に延期を重ね15年遅れでようやく実施された。
- 14 羽津城址**
羽津城は、応永年間(1394〜1428)に上野国赤堀庄から赤堀(当時赤堀)に来て、赤堀城を築いた赤堀肥前守景信の長男盛宗によって、応永5年(1398)に築城された。以後、羽津赤堀氏6代にわたって居城した。その後、小牧・長久手合戦の際に豊秀が降参したが、諸知により崩壊となった。昭和2年に現在の近畿名古屋線敷設工事の際に取り壊されたところを保存運動により掘削形跡に変更され現在に至る。
- 15 老松之跡碑**
江戸時代の寛延3年(1750)に羽津村と阿曾川村の間で志氏我野の境界をめぐり紛争が起きた。大岡越前守と幕府の要人11人による評議で境界が確定した。(判決文書は市指定文化財)この時、境界線上に目印となる4本の松が植えられた。この碑は、東側の1本があった場所を示している。
- 16 森玄住家**
室町末期から徳川期まで代々続いた名家で「山の医者」と呼ばれた。羽津の丸薬製丸の製造販売元でもある。羽津病院(現在の四日市羽津医療センター)を開設した森正道博士も当家の家系であった。母屋は明治16年(1883)に建てられたもので、当時代表的な町家建築である。
- 17 荒木十兵衛頌徳碑**
荒木十兵衛は北條の住人で、元禄5年(1692)から宝永3年(1706)までかけて、大友知多と来ていた用水路を延長して羽津用水を開削し、羽津村を干ばつから救った恩人として、昭和10年代(1935〜)に勢州毎日新聞に掲載された「小説羽津用水」で知られるようになったが、小説がフィクションだったとする説もある。
- 18 志氏神社古墳**
神社拜殿の西にある宮庭が古墳で、四日市唯一の前方後円墳とされる。現存しているのは後円部のみで前方部は社務所遺構の際に削られてしまっている。前方部は現在万葉歌碑がある方向に延びていたようである。古墳の築造年代は不詳だが、4世紀代と推定されている。後者は「伊勢名跡志」として額田部氏の始祖にあたる高富伊弉命とされているが、他にこれを証するものは見つからない。
- 19 志氏神社古墳出土品**
江戸時代(1852)に、境内に溝を付けようとしたところ、前方部後円部の境あたり(四日市市史「墳墓」項)に当たっているから、古墳形土器や古銅の破片、勾玉など古墳の副葬品の一部が出土した。これらは市指定有形文化財となっており、志氏神社に保管されている。
- 20 陶製狛犬**
一対のものは志野焼で、阿形と形形になったものも片足が折れている。夜な夜な遊びに行くと神様のお守りをするのを足で踏んで行かないようにされたといわれる。もう一対は瀬戸焼で、三体とも市の指定有形文化財になっている。
- 21 正法寺地蔵菩薩像**
高さ29cmの松材寄木造の坐像で、鎌倉時代後期の運慶派仏師の作とされる。三重県の有形文化財に指定されており、羽津城を築いた赤堀家の持仏として応永年間(1394〜1428)に額田部氏に奉納されたと伝えられている。
- 22 森良治家**
明治9年(1876)の建築で登録有形文化財に指定されている。森家は清里、養正、淵船問屋、質屋などを営んでおり、当時の町家の風情を伝える。屋根は入母屋式で、切妻が普通だった中では珍しい。構えは二階建ての白壁が美しい土蔵も登録有形文化財に指定されている。
- 23 森多三郎記念碑**
森多三郎は江戸時代に羽津村の肝煎(副庄)だった人で、文久元年(1861)桑名藩の過酷な増徴に抗議してこれを阻止したとされる。翌年、藩庁に呼び出され和解を装った裏切を受けたが毒を喰らえ、光明寺の門前にたどりついたところで息絶えたと伝えられ、光明寺境内に記念碑と墓がある。
- 24 志氏神社一の鳥居**
旧東海道に面して建てられており、鳥居から志氏神社に至る道がかつての表参道で宮造といわれる。鳥居の北側は羽津村の庄屋だった伊藤家があったところ、現在常夜灯がある辺りには高札場もあつて村の中心地だった。
- 25 夫婦石**
東海道の志氏神社一の鳥居の北側に、東海道を挟んで約1メートルと50センチの自然石が向かい合っていて置かれている。これを夫婦石といわれ、往時、行き交う旅人がこれを見て夫婦円満を祈ったといわれる。由緒は不明であるが、昔の三重郡と朝明郡の境界の標石であったといわれる。
- 26 森玄昌家**
「山の医者」と呼ばれた森玄昌家に対して「町の医者」と呼ばれた。この森家の建物は江戸時代末期のもので、かつては煙草がある特徴的な屋根であったが、煙草は老朽化により崩壊したため撤去された。現在は「かわらつ松」の松と呼ばれる。
- 27 かわらつ松**
かつては東海道の至る所にあった松並木も市街化により切り倒された。松並木により枯死してほとんど消滅した。松並木にだけ残っていたのは、この松の2本だけになってしまった。この松の南にある磯切川周辺は、昔、埋地帯で川原須と呼ばれていたに因み「かわらつ松」と呼ばれる。
- 28 八幡常夜灯**
米洗橋北に建てられており、明治35年(1902)に建立されたものである。側面には二十数名の寄附者の名前が刻まれている。この常夜灯は、堤防の改修や道路の拡幅の際に移設され現在地に落ち着いたといわれる。
- 29 延命山正法寺**
応永年間(1394〜1427)に初代羽津城主赤堀右衛門大夫盛宗が能登總持寺より実傳良禪師を招いて開山し、羽津赤堀氏6代の菩提寺として来た。天正2年(1568)に織田信長の家臣滝川一益の兵火により焼失されたが、およそ100年後の17世紀に再興され現在に至る。曹洞宗大本山總持寺南無寺である。本寺の地蔵菩薩坐像は県指定文化財である。
- 30 初野山光明寺**
真言宗の寺院として大矢知にあつたが、寛正元年(1460)浄土真宗高田派の開祖良賢上人が来られて三重郡、朝明郡、鈴鹿郡を教化された際に高田派に転じた。真賢上人の死後、跡目相続をめぐって内紛があり、当寺は高田派を離脱した。享禄年間(1528〜32)羽津のまちづくりの中心として、東海道沿いの荒野に移転(初野山の由来)。天正年間(1573〜92)に浄土真宗本願寺派に転じた。
- 31 放光山明国寺**
元は天台宗の精舎とされるが創立・沿革は不詳。長享2年(1488)、本願寺第八世蓮如上人が当地を巡教された際に、時の住職正了師が、その教化を受け浄土真宗に改宗した。浄土真宗本願寺派に属する。
- 32 班鳩山浄恩寺**
長享2年(1488)、本願寺第八世蓮如上人が当地に立ち寄られた際に、時の班鳩山大膳寺の住職円爾が、その教化を受け大膳寺を出、専断を結んだのを始めとする。浄土真宗本願寺派に属する。境内には本山格寺院以外では珍しい聖徳太子堂がある。当寺第五代空澄が長島の一向一揆に参加し魁首となって七年にわたって織田信長勢に抵抗したが、天正2年(1574)ついに敗れて戦死した。
- 33 無量山本徳寺**
八幡村白須賀新田の長令久志又左衛門の次男小太郎直成は四日市浜九鬼七家の養子となったが、天保15年(1844)出家して徳徳を名乗り、白須賀新田に堂を構えた。その後、無量山別院を通じて、山号、寺号を取得し、無量山本徳寺を開基するに至った。浄土真宗大谷派に属する。
- 34 八幡地藏堂**
現在は八田第一自治会の集会所にある地蔵堂だが、昔は米洗川右岸堤防付近にあり、八幡神社が志氏神社に合祀された後に、現在地に移された。この地蔵像は仏像の知識に乏しい石工が形だけつくり、螺髪に茶塗という阿闍梨如来の姿形になっている。
- 35 金場地蔵堂**
八幡の地蔵堂と同じく石から作られたという。昔は、二重川に架かる橋のたもとにあつたが、昭和46年に二重川を暗渠化し市道を拡幅する工事の際に現在地に移設された。
- 36 森正道博士顕彰碑**
森正道博士は、2度のドイツ留学をするなど、当時の最先端の医学者で、小児科・産婦人科医として名を馳せている。羽津病院(現在の四日市羽津医療センター)を創設し、現在だけでなく、伊賀・愛知・岐阜方面から多くの患者が訪れたといわれる。
- 37 垂坂公園・羽津山緑地**
羽津地区の西部丘陵岡を、自然を生かした公園として整備したものである。展望台からは羽津地区が一望のもとに見渡せ、夜間スポーツとしても知られている。芝生広場では毎年、羽津中学生らによる「山のコンサート」が開催される。
- 38 霞ヶ浦緑地**
霞ヶ浦の海岸は、江戸時代に新田開発が盛んに行われたが、安政東海地震による津波で大きな被害を受け放棄された。大正時代になって霞ヶ浦土地株式会社別荘地及び(有料)海水浴場として再開されたが、伊勢湾台風で被害を受けた以降、衰退した。昭和40年代になり霞ヶ浦コンピナートが建設される際に緑地として整備され、運動施設などが設置された。その後、平成10年には四日市ドームが建設された。
- 39 霞ヶ浦コンピナート**
四日市市内で3番目にできた石油化学コンピナートで、第3コンピナートとも呼ばれる。四日市公害の教訓から、出島形式の人工島の上に建設され、工場群と住居地を運河と対岸に設置された緩衝緑地(霞ヶ浦)で隔てる配慮となっている。最近「工場構え」と呼ばれるマニマニな人たちの撮影スポットになっている。
- 40 萬古焼展示室実山窯**
萬古焼の伝統工芸士である伊藤実山氏の手にある急須や煎茶道具などの数々の萬古焼の作品。他、実山夫人による今では伝承者も少なくなった室萬古作品などを見ることが出来る。見学は予約を受け付け場合のみ可。(TEL 059-332-9392 又はFAX 059-331-0934)
- 41 酔月陶苑**
萬古焼の伝統工芸士である清水酔月氏の手にある伝統的な萬古焼作品のほか、酔月夫人による絵付けや二人の子どもによる現代感覚を取り入れた作品などを見ることが出来る。見学は予約を受け付け場合のみ可。(TEL 059-332-9392)
- 42 藤総ギャラリー**
煎茶を愉しむ絞り出し至高急須の窯元である藤総製陶所が運営する和風陶芸ギャラリーで、焙煎急須など館長のこだわりを感じる作品が展示されている。平日のみ開館、予約は不要。(TEL 059-331-4492)
- 43 オリーブまちかど博物館**
世界の平和に願いを込めて、その象徴として各国のオリーブを展示している。4月から11月の土・日曜のみ開館、予約が必要。(TEL 059-374-3178)
- 44 かめ・かめ博物館**
20年以上にわたって収集した亀の置物などにあつた品々700点を所蔵している。現在も収集を継続中。ギネスブックへの申請も検討している。館長の森一知氏はウミガメ保存会の会長も務める。見学は予約を受け付け場合のみ可。(TEL 059-331-8616 又は090-5111-0297)
- 45 獅子舞**
地区には3つの獅子舞保存会があり、一つはかひいを含む天孫奉迎獅子舞、他の2つは雌雄の神楽獅子舞である。夏と秋の志氏神社の祭りの際などに、地区内を巡回した後、拜殿前で奉納舞いが披露される。
- 46 あんどん祭り**
羽津山町の正法寺境内にある祠に祭られている後行者に因った祭りでは、子どもたちが紙に描いた絵を貼った行燈を参道に掛け並べることからあんどん祭りと呼ばれる。
- 47 日待ち神事**
伊賀留我神社で毎年、折年祭の前夜に行われる神事で、精進湯の湯籠りに由来する。その歴史は古く江戸時代後期の天明4年(1784)頃と伝えられる。かつては、大祭の都度行われていたようである。往時からは簡素化されたといわれるが、現在まで残っているのは貴重である。
- 48 霞ヶ浦プール**
50mプール、25mプールのほか、流水プールや幼児・子どもプールもあり、夏季には児童や親子連れで賑わう。
- 49 霞★ゆめくじら**
宝くじの収益金で霞ヶ浦緑地に設置された大型遊具で県内唯一の規模を誇る。長さ50メートルのローラースライダーの他、市の伝統行事である船を題材にした遊具が揃い、家族連れで楽しめる。
- 50 コンピナート夜景**
コンピナート夜景が静かなブームになっており、四日市ではコンピナート夜景の聖地と呼ばれる。中でも、四日市港ポートビルから見下ろす霞ヶ浦コンピナートは、他では見られない絶景である。垂坂公園・羽津山緑地も夜景スポットとして有名である。海上からコンピナート夜景を見ることが出来る「四日市コンピナート夜景クルーズ」も人気を博している。